岳南朝日

岳南朝日新聞社
〒416-0033
富士宮市野中東町46-1
代　表　(0544)28-0200
ＦＡＸ　(0544)28-0218
編　集　(0544)28-0234
営　業　(0544)28-0220
月977円　1部60円

不動産　売るのも　買うのも　借りるのも
株式会社　斉藤商事
富士宮市山本425番地
TEL0544(27)2623(代)

購読申し込み先
●富士宮（0544）
鈴木新聞店 ☎(26)3285
中野新聞舗 ☎(23)3333
勝亦新聞店 ☎(26)1100
SHC南部販売 ☎(26)2543
中西新聞店 ☎(28)1133
●吉　原（0545）
植草新聞店 ☎(52)0370
鈴木新聞店 ☎(52)5503
星野新聞堂 ☎(52)0376
●富　士（0545）
雨森新聞舗 ☎(61)5049
田畑新聞店 ☎(61)0011
星野新聞堂 ☎(61)0275
●鷹　岡（0545）
安倍新聞店 ☎(71)3327
SHC鷹岡販売 ☎(71)8156
望月新聞店 ☎(71)2647
●富士川（0545）
石井新聞店 ☎(81)1333
佐野新聞店 ☎(85)2093

富士宮市で日本高校会議所初の総会（8月）

地域活性化へ全国の高校生集結

富士宮高校会議所が内容発表　会頭総選挙、ロゴマーク決定など

第1回総会の内容を発表する関係者

富士宮市内の高校生が連携して、高校生視点で地域振興や地方創生、地域ビジネスの手法について学ぶ富士宮高校会議所（遠藤祐太会頭）は7日、同市西町の西町レトロ館で、今年8月に富士宮市で開催する日本高校会議所第1回総会の内容を発表した。当日は、次期日本高校会議所会頭を決める総選挙や、第1回高校生地域活性化プロジェクト発表大会、日本高校会議所ロゴマークの決定、交流会などが予定されており、全国各地から集結する高校生が連携しながら地域活性化策などの共有を図る。

日本高校会議所は富士宮高校会議所が中心となり立ち上がった高校会議所の全国組織。昨年11月25日に開かれた設立準備委員会で富士宮高校会議所が事務局を任され、初の総会に向けた準備を進めてきた。第1回総会は8月4日午後2時から、富士宮市民文化会館小ホールで開催。ゲストサポーターにタケノコ王として活躍する風岡たけのこ園の風岡直宏さんを迎え、「タケノコを掘るように、地域の魅力を掘り起こせ！」をキャッチコピーに行われる。

次期会頭を決める総選挙は、全国の高校生が地域をPRする動画を制作し、無料アプリ「ジモフル」（http://jimoful.com/）に動画をアップ。7月1日から22日まで投票を受け付け、最も得票数の多い地域の高校生（リーダー）を次期会頭とし、総会当日に結果発表・委任式を行う。

動画の募集期間は6月1日から30日まで。対象は高校生で、次期会頭になる場合は、日本高校会議所の事務局を引き受ける地域サポーター（NPO・行政・高校・各種団体等）と活動できる状態にあり、第2回総会の開催・運営を行えることが条件。

チーム・個人が活動プレゼン

また、高校生地域活性化プロジェクト発表大会は、書類審査を通過した高校生チーム・個人が自分たちの地域で行っている活動をプレゼン。全国の高校会議所会頭をはじめ、風岡さん、大正大学地域創生学部関係者らが審査し、各グランプリを決定する。また、公共交通機関をベースにした交通費も支給する。交流会では、当日来宮できない高校生とも交流するため、グーグルハングアウトやスカイプ等を活用し、交流を図っていく。

第1回総会の内容を発表した富士宮高校会議所の前会頭で現在、日本高校会議所会頭を務める中村真緒さんは「高校会議所モデルを全国に周知し、高校生の発想を取り入れた地域活性策を広げていきたい」とあいさつ。遠藤会頭は「初めてのことで手探り状況だが、多くの人が興味を持って参加してくれたらうれしい」と話した。

せん定枝資源化事業

17年度搬入量は389トン

前年度と同量27%をリサイクル

市清掃センター

富士宮市清掃センターは、2017年度のせん定枝資源化事業の搬入・搬出実績をまとめた。搬入量は2607件で、389トン（1トン未満は四捨五入）だった。このうちチップ、まきにした加工材の搬出量（市民に還元）は合わせて434件、105トンに上り、前年度と同じ搬入量の27%がリサイクルされた。

同事業は、家庭ごみとして回収される分とは別に清掃センターに直接持ち込まれるせん定枝を対象に、まきやチップ材に加工し、市民（登録者）に燃料や堆肥として無料で還元している。チップやまきに適さないものは焼却処分しているが、少しでも可燃物を減らし、焼却炉の延命を図る狙いがある。

せん定枝資源化量はチップが181件で、市民に還元された搬出量は50トン。前年度対比で28件の増、重量で6トンの減。まきが253件で、同搬出量は55トン。前年度対比で17件の増、重量で2トンの増。

搬入されたせん定枝のうち焼却または破砕焼却された重量は284トンで、搬入量の7割強となった。

チップ、まき用材の利用登録者は709人（重複者含む）で前年度登録者を36人上回った。内訳はチップの登録者が396人で、前年度対比15人の増。用途別件数は雑草抑えが310件、堆肥が120件、その他4件。

まき用材料の登録者は414人で、前年度対比25人の増。用途別件数はまきストーブ356件、風呂31件、かまど19件、バーベキュー11件、陶器窯、薫製各1件、その他10件。それぞれ利用回数に制限はなく、何度でも利用できる。

同事業は7年目を迎え、利用者数は年々増加傾向にある。搬入に関してはせん定枝の基準を設けており、太さは25センチ以内、長さは1メートル以内とされる。枝につく葉は落とし、枝分かれ部分のこぶはきれいに切り落とし、チッパーにかけやすい状態での搬出に理解と協力を求めている。

17年度実績は776トン余

富士宮市　畜産堆肥利用促進事業　補助金総額は72万6300円

富士宮市は畜産堆肥利用促進事業（補助金交付事業）の2017年度実績をまとめた。利用実績はバラ堆肥が746トン、袋入り堆肥が30・4トン（1520袋）で合わせて776・4トンとなった。利用者33人に対し、総額72万6300円（1農家年額10万円を上限）を交付した。前年度比で8人の減、重量で62トン、金額で19万9800円の減となった。

同事業は市内で飼育される家畜から発生するふん・尿を良質な堆肥にし、有機栽培農家などの生産活動に役立ててもらうのが狙い。

対象者は耕種農業を営む認定農業者、フードバレー推奨農産物認定制度登録生産者、有機JAS認定農家、エコファーマー認定農家、しずおか農水産物認定農家、富士山麓有機農業推進協議会（市内会員）、人・農地プランに位置づけられた農家、新規就農者（青年等就農計画認定農家）ら。

補助金はバラ堆肥が1トン（約2平方メートル）当たり1000円以内、袋入り堆肥は1袋当たり50円以内で、1農家10万円を限度額としている。

同事業は08年度からスタート。利用量は年度で増減を繰り返している。同事業で流通する堆肥は市内で発生するふん・尿のごく一部で、市当局では制度の積極的な活用を呼び掛けている。

富士山の自然を守る会

20日、「長者ケ岳を歩く」

参加者募る

富士山の自然を守る会（佐藤尚吾会長）は20日、田貫湖南側キャンプサイトを集合・出発地点に「長者ケ岳を歩く」を実施する。雨天中止。参加申し込みは当日、集合場所で受け付ける。

同湖畔から一気に登る長者ケ岳は富士山の眺望が素晴らしく、全国に知られた名山。春は新緑の間から望む富士山、田貫湖、朝霧高原をはじめ、山頂からの南アルプス連山など見どころがいっぱい。同岳から佐野への分岐点往復では稜線にあるツツジ類の花を楽しめる。登山道沿いに咲くかれんな野草や野鳥の鳴き声も心を癒やしてくれる。出発地点への帰着は午後4時。

集合時間は午前9時。参加費500円。持ち物は昼食、水筒、雨具、防寒具。

問い合わせは同会事務局・佐野守茂さん（電090―8737―0566）へ。

自動車図書館　びばりーの

▽9日＝杉田区民センター駐車場（9時30分～10時15分）稲子小学校体育館前（9時45分～10時30分）杉田幼稚園（10時30分～11時10分）大富士小学校（14時30分～16時）上野小学校（14時30分～15時30分）

悪天候や各施設の都合などで巡回を中止、または巡回日時を変更する場合がある。

宮崎クリニック

受付時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
AM8:30～12:00	●	●	●	／	●	●	／
PM2:30～6:00	●	●	●	／	●	／	／

〈消化器内科・内科〉　院長　宮崎　裕
・日本肝臓学会認定 肝臓専門医
・日本消化器病学会認定 消化器病専門医
・日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医

〈産婦人科〉　副院長　宮崎　千恵子
・日本産婦人科学会認定 産婦人科専門医
・日本乳がん検診精度管理中央機構認定
マンモグラフィー読影認定医・撮影認定医

☎0545-66-3731　富士市松岡300-15　身延線竪堀駅西側 徒歩3分